

などに納入実績がある。同社データー事業部の阿部和夫部長(74)は「防犯意識の高まりや、国際情勢でニーズが高まっている。今後はさらに高強度の製品開発を進めていきたい」と話した。

セントーシモンを経て学識経験者らが実用性や将来性、地域貢献などの観点から選んだ。14日、市役所で証書授与式があり、各社の代表者に贈られた。

産業振興を目的に創設された制度で、新技术や新商品に対し、市が100万円を上限に開発経費を助成する。22年度は9社からの応

新技術開発3社に補助

姫路市は、市内の中小企業による優れた新技術や新製品の開発を支援する「ものづくり開発奨励補助金」の交付企業を決めた。2022年度は審査の結果、園児からの車内置き去りを防ぐ装置や、耐衝撃性を高めたテロ対策ゲートなどを開発した市内の3社を選出した。

した市内の3社を選出した。

(山本
晃)

魚の病気研究

園児車内置き去り防止

開発した商品や証書を手にする各企業の
関係者ら＝姫路市役所



システム(大津・天神町)も選ばれた。服部憲由社長(67)は「問い合わせが殺到し、既に主力商品になりつつある。開発は事故直後に設計を始め3日間で試作までこぎ着けた。そのスピード感も評価されたと思う」と喜んだ。

産業技術総合研究機構や九州大と共に、カイコを使って魚の病気への抗体を作り研究を進めている。抗体を含んだマユを液体化し、水槽のろ過フィルターや病気の診断キットとして実用化を目指す。同社開発部の宮本雅彰次長(48)は「1年

後をめどに商品化し 海外への販路開拓を進めたい」と意気込む。

市が将来性など評価

はりま
ライフ
経済